

国語A (主として「知識」に関する問題)

これまでの傾向

5年間の調査結果において、同じような趣旨の下に複数年にわたって出題された設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 「読むこと」の領域。特に、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえること。
(「読むこと」の領域で、正答率全国平均を上回ったのは全13問のうち8問)

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 漢字を正しく読むこと・書くこと。(正答率全国平均を下回ったのは全29問のうち25問)
- ローマ字やことわざ、慣用句等を正しく使うこと。(正答率全国平均を下回ったのは全8問のうち7問)

今後の取組

課題として考えられる内容に対する学習指導のポイント

- 漢字の書きについては、繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文脈の中で適切に使うことができるように指導していく。
- 3・4年生で学習する、ローマ字やことわざ、慣用句等は、日常生活と結びつけながら、意図的、計画的に指導することで、学んだ言葉の定着を図っていく。

国語B (主として「活用」に関する問題)

これまでの傾向

5年間の調査結果において、同じような趣旨の下に複数年にわたって出題された設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 「話すこと・聞くこと」の領域。特に、話し手の意図をとらえながら聞くこと。
(「話すこと・聞くこと」の領域(記述式の問題を除く)で、全8問とも正答率全国平均を上回った)

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 目的や意図に応じて自分の考えを書くこと。
(「書くこと」の領域の記述式の問題で、全17問とも正答率全国平均を下回った)
- 無解答率が高いこと。(無解答率が、全国平均より高かったのは全46問のうち43問)

今後の取組

課題として考えられる内容に対する学習指導のポイント

- 実際に文章を書く活動を多くとるとともに、条件等(字数や要約)に即応するために、優れたモデルを提示して、具体的な記述の仕方を繰り返し指導していく。
- 解答する際には、設問をよく読み根気強く取り組むようにする。特に、選択式の設問では、自分が最も適切と思う選択肢を必ず解答することを習慣づけていく。

算数A (主として「知識」に関する問題)

これまでの傾向

5年間の調査結果において、同じような趣旨の下に複数年にわたって出題された設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 「知識・理解」の観点。数量の関係や式の意味を理解すること。

(「知識・理解」の領域で、正答率全国平均を上回ったのは全45問のうち15問)

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 基礎的・基本的な数量や図形についての技能に関すること。特に、整数、小数、分数の四則計算をすること。(四則計算で、正答率全国平均を下回ったのは全17問のうち13問)

今後の取組

課題として考えられる内容に対する学習指導のポイント

- 四則が混合した計算や計算の順序についてのきまりに従った計算については、機会を設けて継続的に指導し、計算技能の習熟と定着を図っていく。
- 乗法や除法の計算の意味について理解することは、第2、第3学年から系統的に指導していく。

算数B (主として「活用」に関する問題)

これまでの傾向

5年間の調査結果において、同じような趣旨の下に複数年にわたって出題された設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 「図形」の領域。特に、図形の性質を基に事象を判断すること。

(「図形」の領域単独の問題で、正答率全国平均を上回ったのは全7問のうち5問)

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 問題を解決するための考え方や判断の理由を記述すること。

(記述式問題で、正答率全国平均を下回ったのは全25問のうち17問)

- 無解答率が高いこと。(無解答率が、全国平均より高かったのは全60問のうち55問)

今後の取組

課題として考えられる内容に対する学習指導のポイント

- 記述式の問題における学習指導では、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり、他者を説得したりできることが大切になるため、3種類(「事実」「方法」「理由」)の記述内容を数学的に表現できるように指導していく。

国語A (主として「知識」に関する問題)

これまでの傾向

5年間の調査結果において、同じような趣旨の下に複数年にわたって出題された設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 「読むこと」の領域。特に、文章を注意して読み、内容を理解したり要旨を捉えたりすること。
(「読むこと」の領域で、正答率全国平均を上回ったのは全 26 問のうち 25 問)
- 「話すこと・聞くこと」の領域。特に、相手に分かりやすく話すこと。
(「話すこと・聞くこと」の領域で、正答率全国平均を上回ったのは全 21 問のうち 20 問)

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 漢字を正しく読むこと・書くこと。
(「漢字の読み・書き」で、正答率全国平均を下回ったのは全 30 問のうち 13 問)

今後の取組

課題として考えられる内容に対する学習指導のポイント

- 文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導していくとともに、必要に応じて辞書などを活用して漢字の意味や用法を確認する態度や習慣を養っていく。

国語B (主として「活用」に関する問題)

これまでの傾向

5年間の調査結果において、同じような趣旨の下に複数年にわたって出題された設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 「読むこと」の領域。特に、文章から目的に応じて必要な情報を読み取ること。
(「読むこと」の領域で、正答率全国平均を上回ったのは全 33 問のうち 25 問)
- 記述式問題。根拠を明確にして自分の考えを書くこと。
(記述式問題で、正答率全国平均を上回ったのは全 15 問のうち 12 問)

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 自分の意見や考えに、さらに説得力をもたせる記述をすること。
(記述式問題で、正答率 50%未満の問題は全 15 問のうち7問)

今後の取組

課題として考えられる内容に対する学習指導のポイント

- 自分の意見や考えに説得力をもたせるために、中心となる主張を明確にするとともに、根拠となる資料が、自分の主張を裏付けるための材料として適切であるか判断させ、目的に応じて適切に使い分けることができるように指導していく。

数学A（主として「知識」に関する問題）

これまでの傾向

5年間の調査結果において、同じような趣旨の下に複数年にわたって出題された設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 全領域における「数学的な技能」および「数量や図形の知識・理解」の観点。
（「数学的な技能」の観点で、正答率全国平均を上回ったのは全85問のうち62問）
（「数量や図形の知識・理解」の観点で、正答率全国平均を上回ったのは全95問のうち68問）

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 資料から相対度数や中央値を求めること。
（1年「資料の活用」の問題で、正答率全国平均を下回ったのは全10問のうち6問）

今後の取組

課題として考えられる内容に対する学習指導のポイント

- 資料の傾向を読み取る活動を取り入れる中で、ヒストグラムや代表値の必要性和意味を十分に理解できるように指導していく。

数学B（主として「活用」に関する問題）

これまでの傾向

5年間の調査結果において、同じような趣旨の下に複数年にわたって出題された設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 「数と式」の領域。特に、数学的な表現を用いたり構想を立てたりして説明すること。
（「数と計算」の領域で、正答率全国平均を上回ったのは全20問のうち18問）
- 記述式問題。特に、事柄が成り立つ理由を記述すること。
（記述式問題で、正答率全国平均を上回ったのは全30問のうち24問）

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 「資料の活用」の領域において、与えられた情報から必要な情報を選択して、的確に処理すること。

今後の取組

課題として考えられる内容に対する学習指導のポイント

- 小学校の学習内容から出題されることもあるため、生徒たちがどのような力を付けているか、生徒の実態を的確に捉えるとともに、小学校と中学校の学習内容の関連や連携について配慮していく。

子どもたちの生活の様子

これまでの傾向

5年間の調査結果における設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 規則正しい生活習慣は、心身ともに健やかな成長のために大切であるという認識が、定着している。（「朝食を食べている・どちらかといえば食べている」児童は、過去5年間常に90%以上）

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 地域の行事への参加への意識が低いこと。
（「地域の行事に参加している・どちらかといえば参加している」児童は、過去5年間で、一度も全国を上回ったことがなく、差は大きくなっている。）

今後の取組

課題として考えられる内容に対する指導のポイント

- 小中一貫教育やコミュニティ・スクールなどの取組に関連させ、学校・家庭・地域が連携し、積極的に地域の行事等の周知や参加をすすめていく必要がある。

子どもたちの学習の様子

これまでの傾向

5年間の調査結果における設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 家庭学習や読書習慣など、学習習慣は定着している。
（「平日3時間以上学校以外で勉強している」児童は、過去5年間のうち3年間で全国を上回っている。）
- 話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりしている児童は増加傾向にある。
（市の結果としては、平成26年度比で8.2ポイント上昇）

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 自分で計画を立てて勉強をすること。
（「自分で計画を立てて勉強している」児童は、過去5年間のうち4年間で全国を下回っている。）

今後の取組

課題として考えられる内容に対する指導のポイント

- 家庭学習において、児童自ら主体的、計画的に家庭学習に取り組み、学校での学びにつなげられるように、家庭と連携を図りながら、学習内容や方法等を工夫していく必要がある。

子どもたちの生活の様子

これまでの傾向

5年間の調査結果における設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 自尊感情や規範意識が高く、充実した学校生活を送っている。
(「自分にはよいところがあると思う」生徒は、過去5年間のうち4年間で全国を上回っている。)

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 地域の行事への参加の意識が低いこと。
(「地域の行事に参加している・どちらかといえば参加している」生徒は、過去5年間で、一度も全国を上回ったことがなく、差は大きくなっている。)

今後の取組

課題として考えられる内容に対する指導のポイント

- 小中一貫教育やコミュニティ・スクールなどの取組に関連させ、学校・家庭・地域が連携し、また、部活動の休養日なども利用して、地域の行事等の周知や参加を積極的にすすめていく必要がある。

子どもたちの学習の様子

これまでの傾向

5年間の調査結果における設問より

◆5年間の調査結果から一定の成果として認められる内容

- 学習時間や読書習慣が定着している。
(「平日3時間以上学校以外で勉強している」生徒は、過去5年間とも全国を上回っている。)

◆5年間の調査結果から課題として考えられる内容

- 自分で計画を立てて復習などの勉強をすること。
(「自分で計画を立てて勉強している」生徒は、過去5年間とも全国を下回っている。)

今後の取組

課題として考えられる内容に対する指導のポイント

- 家庭学習については、学習内容や方法等を把握し、家庭の協力を得ながら、学校の指導につなげる必要がある。その際、新学習指導要領の実施に伴い、「何を学ぶか」という視点だけでなく、「どのように学ぶか」という視点を大切にしていく。